



The service club to the YMCA
**THE Y'S MEN'S CLUB OF
 TAKARAZUKA**

宝塚ワイズメンズクラブ
 〒662-0977 西宮市神楽町5-23
 西宮YMCA内
 ☎(0798)35-5987

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ 2013年9月会報

**記念
 第300号**

主 題 ・ 標 語

- 国際会長 (I P) Poul V. Thomsen (デンマーク)
 主題: "Go Ye Into All The World" 「全ての世界に出て行こう」
 標語: "Extension, Extension, Extension."
 「エクステンション、エクステンション、エクステンション」
- アジア地域会長 (AP) 岡野 泰和 (日本)
 主題: "Start Future Now" 「未来を始めよう、今すぐに」
 標語: "One Asia, One World" 「ひとつのアジア、世界はひとつ」
- 西日本区理事 (RD) 高橋 稔彦 (岩国みなみ)
 主題: 「志をもって例会に参加し、学びの機会をもちましょう。」
 "Attend club meetings with a clear motive to make the most of them."
 標語: 「経験がワイズを育みます」
 "Your experience makes you a good Y's man."
- 六甲部長 山田 滋己(神戸ポート)
 主題: 「さらなる交流 さらなる国際 さらに活発な六甲部へ」
 《一つ一つの楽しい活動を原点にして》
- 宝塚クラブ会長 石田 由美子
 主題: 「交流こそワイズの楽しさ」

今月のテーマ:メネット

神の国を何にたとえようか。パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。

ルカ 13:20

2013年9月第1例会

日 時: 2013年9月11日(水)18:30
 場 所: 宝塚ホテル ゴールドの間
 会 費: 会員 3,000円、会員外 3,500円
 ドライバー

開会点鐘
 ワイズソング
 聖 書
 祈 禱
 ゲスト・ビジター紹介

堀江 裕一
 小嶋 星子
 石田由美子会長
 全 員
 桑田 勝弥
 福田 宏子
 石田由美子会長

マニラアジア大会報告
 アジア会長 岡野 泰和氏
 参加者 石田会長、
 多胡ワイズ、福田(宏)ワイズ

ユースコンボケーション報告
 参加者 桑田ワイズ、家田リーダー

誕生日のお祝い
 会長報告 石田由美子会長
 YMCA 報告 谷川 尚連絡主事
 閉会点鐘 石田由美子会長

2013/14 役員	会 長 石田由美子 直前会長 長尾 亘 副会長 杉谷和代、福田宏子 書記 若林成幸 会 計 吉田 明、堀江裕一 会計監査 今田 稔 メネット連絡 福田素子 連絡主事 谷川 尚 六甲部地域奉仕 環境事業主査 長尾 亘
事 業 委員長	YMCAサービス・ユース 長尾 亘 地域奉仕・環境 山崎泰男 EMC 多胡葉子 交 流 杉谷和代 ファンド 堀江裕一 広 報(ブリテン) 長尾 亘、(HP) 長尾 亘
特別事業 委員長	NGO 三品ミチ子 じゃがいも 福田 肇 バザー 山崎泰男 市民クリスマス 若林成幸
お誕生日 おめでとう!	樋之内登志(9月17日) 谷川 尚(9月22日) 三品ミチ子(9月20日) 福田宏子(9月23日) 加藤富美子(9月23日)
8 月 実 績	在籍会員数 24名 例会出席者数 25名 うち会員数 15名 出席率 62.5% メイクアップ(内数) 2名 メネット 1名 コメント・マゴメット3名、ゲスト・ビジター6名
	B F ポイント 8月 0円 累 計 5,142円 にこにこBOX 8月 3000円 累 計 3000円 物品販売累計 4,000円

2013年8月第1例会

8月の例会は納涼例会として第一部をワールドの間で、第二部をホテル屋上のビアガーデンを会場に開催された。第一部は石田会長の開会点鐘からはじまり聖書朗読、祈祷、そして会長から本日の10人のゲスト・ビジターの紹介へと進んだ。六甲部長の公式訪問日として参加下さった山田六甲部長が今期の六甲部への思い“Sweat Activity”で楽しい場づくり、交流、そして更なる六甲部の広がりへの熱い思いが一同に伝わったメッセージをいただいた。

続いて EMC 主査として出席された西宮ワイズの小野メンから今期の EMC 活動につなげるためのアンケートの依頼。次に誕生日祝いがあり、そして会長の報告。その中に我がクラブの最年少の桑田勝弥メンが8月8日に入籍され新婚生活をスタートされたとの喜びの報告に一同大喝采。結婚式は来年になるとのこと。そして閉会点鐘へと急ぎ足で第一部を終え、第二部のために旧館9階のビアガーデンへ一同移動した。

異常気象が日本列島を襲っている中での屋上での第二部の開催を決定するには勇気がいった。ホテル側といろいろなケースを想定してはみたものの・・・当日晴天になることのみを信じて。幸いにも雨の心配もなく開催された第二部のビアパーティ。会場では3つのテーブルに分かれて、飲み放題のビール、ワインなどのお酒類、そしてお料理。屋上でのパーティは一般客も一緒に星空をあおぎながら、日中の暑さをそして、夏のつかれを吹っ飛ばしての楽しい歓談がつづき、あっという間に二時間のときは流れ、明日への活力を身に付け解散となった。
(多胡 葉子)

8月第2例会報告

8月21日(水)18:30からHappy Houseにて第2例会を開催。石田会長・長尾・吉田・堀江・福田肇・若林・多胡・福田宏・今田メネットが出席し、次の事項を協議した。

1. 例会の運営

- 9月例会はアジア大会報告会とし、ユースコンボケーションに参加の桑田メンと西宮Yリーダー家田奈津美さんを招く。アジア大会に参加の石田・多胡・福田宏メン及び岡野アジア会長の報告も聴く。
- 10月例会ゲストに宝塚市在住のコミックエッセー作家・細川貂々(てんてん)氏を内定。

2. 9月7日(土)六甲部部会の概要

- 13~14時 メネットアワー
- 14:30~19:00 開会礼拝・神戸ポートクラブ25周年記念会・神戸大教授 矢野吉治氏の講演「海からの救援」・パーティーなど
- パーティーの時に岩国クラブとの交流会を予定。
- 会場：神戸クリスタルタワー3F
- 参加者は石田会長まで連絡。

3. 西日本区各部の部会案内。

- 8月31日中西部部会(金沢にて)。岩国カレーを販売し次回の西日本区大会ファン্ডに協力。
- 9月1日京都部会(京都グランビアホテル)
- 10月5日彦根部会(琵琶湖船上にて)
- 参加希望者は石田会長まで連絡すること。

4. 次期六甲部部長・キャビネットの人事

次期六甲部部長として多胡葉子メンの内定に合わせキャビネット人事(案)を協議。事務局長に長尾、会計に堀江、書記に若林

- 各メンを推挙することとした。
5. メネット事業報告(今田メネット)
 - 9月7日メネットアワーは障害児をもつ親を囲む対話集会。
 - 9月27日～30日 「きらりと輝くアート展～みんなでアートを楽しもう～」を芦屋市民センター3Fにて開催。はんしん自立の家・さざんか福祉会・アズビット・ポップンキッズからも出展予定。
 6. じゃがいも販売事業報告(福田メン)

今年も昨年同様、十勝クラブから、10Kg・400箱を購入して販売する。売値 2100 円。
 7. 市民クリスマス事業報告(若林メン)

プログラム・出演者が決まり 9月から合唱団員を募集。聖書朗読は石橋聖トマス教会司祭 磯牧師に決定。
 8. ブリテン編集(長尾メン)

9月号は 300号記念誌としてアジア大会報告、300号特集を掲載。寄稿分担・作業日程を確認した。

(若林)

300号記念 300号記念

特集 ブリテン第 300 号に寄せて

元ブリテン委員長（現岩国クラブ）辻 建

宝塚クラブの創立 10 周年記念誌を開いてみると、「ブリテン」の項に私自身の筆で以下のような記述をしています。

「(ブリテンの)第 1 号は設立総会前の 1998 年 1 月に出され、藪内正義メン、多胡葉子メンが編集にあたった。その後岡崎桂二メン、植田大輔メン、辻建が引き継いで編集に携わってきている。内容はその時々のブリテン委員の創意工夫が反映しており、「メンバー紹介」「メネット紹介」「私のこの 1 冊」「私の趣味」といった連載物が掲載されて好評であった。印刷方法も時とともに変化して、ワープロ時代の技術革新がブリテン編集にも影響を与えている。現在はパソコンから直接印刷機へ印字される仕上がりも鮮明になった。1997 年 1 月号でちょうど 100 号を迎え、記念特集として「ブリテンへの期待」という文章をメンバーに依頼した。「楽しく読める物」「ワイズの暖かさが伝わって来る物」「地域の交流の場となる物」「活動報告を残らず掲載するもの」「ワイズの主張を」「おもしろく、あたたかく、正確に」といった声が寄せられ、ブリテンに対する期待の大きさをあらためて認識させられた。」と記しています。

その後、私が仕事上会長の任務が無理なので免除して頂く代わりに広報委員として主にブリテンの編集を引き受けさせて頂きました。宝塚教会時代から夙川東教会に転任してからもそれが継続し、毎月夙川まで委員の方々には印刷と発送のためにお越し頂きました。発送後は持ち寄りのおやつや時に

はビールをまじえての交流のひとつを楽しむのが恒例となっていました。

夙川を去って山口県大島に移ってからは、若林ワイズが広報委員長を引き受けて下さり、なんの支障もなくブリテン発行が続けられました。その後健康を害されたのをきっかけに現在の長尾ワイズが編集委員長としての激務をこなされており、ほんとうに頭のさがる思いで毎号読ませて頂いております。

ブリテン発行で印象的な思い出は、なんと言っても2012年長浜での西日本区大会のフィナーレ間際、宝塚のブリテン発行が理事特別表彰の名誉に輝いた瞬間でした。その会場に居あわせた岩国クラブに属する私も、夢ではないかと長年自分が手がけて来たわが子のような宝塚クラブブリテンの栄誉に驚きの声を挙げたことでした。ほかのクラブのブリテンと比べて紙質といい、お金のかけ方と言い、けっして抜きんでたものではない、一見粗末に見えるこのブリテンが理事の目に留まり評価されたのは、やはりそこにこめられているクラブ活動の豊かさにあることは間違いありません。

いま西日本区のなかでもっとも充実したクラブと言って過言ではない宝塚クラブがますますその内容をゆたかにし、それがブリテンの内容を形作っていくことを心から期待してやみません。300号発行おめでとうございます。



元ブリテン委員長 若林成幸

宝塚ワイズ活動を象徴するものは、毎月発行のブリテンと7月発行の年次報告書である。これは、宝塚在住時に長年に亘って作製の労を担われた辻 建牧師の功績にほかならない。私は先生が周防大島へ転宅された後、2008～2010年度の3年間にその役割を担当させてもらった。前任者の軌跡にならって、毎月の記事集め・編集・印刷・郵送という工程を確実に実行して、会員や関係者120人の手元に届けた。毎月の編集時期が迫ると、記事の集まり具合に冷や汗を流したことを思い出す。私は、ブリテンにクラブ活動の記録性・会員の個性の表現・全員参加による交流、を目指した。そしてその作業を通じてワイズ活動の真意が見えてきた、という宝物を得た。どれも辻牧師がこだわってこられたテーマであり、それはいまや当クラブの伝統となり、後継者に受け継がれている。

一昨年、西日本区大会においてブリテン特別賞を受けたが、まさにこの伝統が評価されたのであろう。



ブリテン委員長 長尾 亘

私が宝塚クラブに转会したのは2002年7月からで、初めに関わったのがブリテンで有り、辻先生の夙川東教会で発送準備をしたことです。（準備後辻先生の手作りの餃子を食べるのがたのしみでした。）大阪土佐堀クラブではあまりブリテンにはかかわって居なかったのですがブリテンの役割と必要事項は良く聞かされていて、宝塚クラブのブリテンが良く出来て居る事を感じていました。

今年設立25周年を迎え、ブリテン300号を作るにあたり、歴代（辻ワイズ、若林ワイズ）のブリテン委員長の基本に崩れが無く、引き継がされて来たことを誇りに思っています。しかし、ブリテンを作成するにはメンバーの協力が条件で有ります。いちばんは原稿依頼提出（メールで直ぐに送

られてきます。)、校正 (パソコンに詳しい者2人で半日、印刷は1日)、発送 (何時も3名から5名が協力、2時間) これらの作業が何時もスムーズに行われ、例会日 (1週間前) までにメンバーの所に届くように発送されます。皆で勝ちとった「ブリテン最優秀賞」を忘れないで、これからも魅力あるブリテンを作って行きたいと思います。



ブリテン委員 吉田 明

クラブ設立25年を経て、ブリテン発行も300号が達成された。この間、一度も途切れることなく、例会開催日前に必ず会員に届けられて来たことは素晴らしいことだと思う。これは歴代担当者の地道な努力によるもので!心より敬意を表したい。又、我々クラブのブリテンはその形式、内容ともに定評があり、一昨年の区大会に於いては「ブリテン最優秀賞」の荣誉に輝いた。ブリテン委員の一員として誠に嬉しいことでした。この受賞の直後に或るクラブから宝塚クラブの一年分のブリテンを送って欲しい、という依頼があったほどでした。

私がブリテンの印刷、発送に関わり始めたのは定年退職後ですから、もう10年以上になります。そのころ、今西さんの車で、月に一度辻先生の夙川東教会に行き作業をしていたことが懐かしく思い出されます。我がクラブのブリテンはその主たる機能である組織としての記録の蓄積に加えて、「今月のみ言葉」「お誕生日シリーズ」(今年度から変更)、また会員の外部行事への参加感想など楽しみな記事がいっぱいです。

これからも「愛されるブリテン」「待ち遠しいブリテン」でありますように。

.....
300号記念
.....

マニラアジア大会報告

京都キャピタルクラブとマニラ・ラハクラブの
IBC お見合い ♡



京都キャピタルクラブが来年4月開催の30周年記念例会に於いて、フィリピン、又は台湾のクラブとIBC締結式を執り行い記念事業としたい、と言う希望を私の交流事業主任任期後半辺りから聞いていました。東京クラブメンバーで国際議員であった田中博之メンのヘルプを得て、マニラダウンタウンクラブが7か月前にチャーターしたラハクラブ(RAHA CLUB)とご縁が出来て、今回のマニラ大会でお見合い

の運びとなりました。京都キャピタルクラブからは金原弘明会長を中心に合計8名が出席、ラハクラブからは9名、そして、高瀬西日本区理事、上村眞智子交流事業主任も同席しました。

まず自クラブの紹介です。ラハクラブからいきなり強烈な活動内容を聞き、さすがパワフルな京都部も言葉が出ない位でした。



その活動とは、レスキューです。RAHAとはRoyal Alliance for Humanitarian Actionの頭文字です。つまり人道的活動のための連携を目的としてマニラダウンタウンクラブのメンバーが子クラブとして設立したクラブです。メンバーは19名、全員ロータリー、ライオンズクラブのメンバーでもあり、レスキューに関連する業種についている人達です。大災害時、海から物資を運ぶ、現地で汚水を浄化する装置を持って行く、経営するネットカフェから情報発信する、レストラン経営のチャンネルで食糧調達をする、など万が一に備えての体制を確立しています。同時に24時間、365日行っているのは救急車、消防車による人命救助です。トラックを含め7台

の救急車両を寄付やポケットマネーで購入し、80名のボランティア(看護師、医師、



エンジニア)がシフトを組んで行政が行き届かない所をカバーしています。実際、一番早く火事現場に駆けつけるのはほとんどワイズの消防車だそうです。そして時には現場から消防署に電話することもあるとか・・・

ジョナサン・テン会長によれば、ロータリークラブはポリオワクチン、ライオンズクラブは献眼、視覚障がい、と言うように世界的に象徴

的な活動方針で知られているが、ワイズメンズクラブはそれが無い、自分達がロータリーでも取り組んでいるレスキューをクラブの方針、目的として、将来は「ワイズと言えばレスキュー」とフィリピンで認識されるようになりたい、との事でした。

1時間近くの会談後、「指令センターを見に行きませんか?」とお誘いがあり、こうなれば現場を見るしかない!と、彼らの車と救急車に分乗して、(おまけにサイレンを鳴らして!)全員で出掛けました。指令センターには救急車、消防車が待機。これらの車両は全部日本からの輸入で、1台の消防車は何と、岡山ナンバーをそのままつけてマニラの町を走っています。どの車両にもワイズメンのロゴやラハクラブの名前が書かれていました。途中から参加した岡野泰和アジア会長も、日本側メンバーもかなり興奮してホテルに帰って来た時は既に夜中の12時になっていました。翌日行われた4つのフォーラムの内、CSの会場では、テン会長によるプレゼンテーションがあり、出席者にも大きなインパクトを与えました。ちなみに会場で紺のユニフォームを着て待機していたのは殆どが看護師のボランティアです。

大変ユニークな新しい形の明確なクラブですが、ほぼ同年代の京都キャピタルクラブのみなさんがクラブ内でどんな報告をされ、結論を出されるか大変興味深い所です。今大会で一番印象的な経験でした。

(石田由美子)

25th Asia Area Convention

8月2日~4日の3日間フィリピンマニラで開催されたアジア大会にクラブから石田、福田宏、多胡の3人が参加した。

8月1日関空からマニラ空港へトラベルファイブのエージェンシー内垣内さんの引率。マニラ空港からはお迎えのバスでガイドのロウェナさんの日本語によるガイド。ホテルに着くま

でに3カ所(リサールパーク、世界遺産指定のフィリピン最古の石造建築教会のサン・アグスチン教会、カーサ・マニラ博物館)を観光。夜はフィリピン料理のお店で、美味しいフィリピン料理とフィリピン民族のダンスショー。そして宿泊の Traders Hotel へ。

2日目は朝からバスで大会会場の Sofitel Philippine Plaza Hotel へ移動。早々と登録を済ませ、開会までの時間をアジアで3番目に大きいと誇る SM Mall of Asia へショッピングといつもの女性軍の心の踊る行動を早くも実施。

2時からはオープニングセレモニー。参加者は全員で302人(日本、台湾、フィリピン、スリランカ、インド、韓国、国際委員など)とアジア大会としてはこじんまりとした大会であった。

今期からアジア会長の重責を担われる岡野泰和メンが Asia Banner を持っての入場に



はとても嬉しく拍手にも力が入った。また、彼の就任スピーチはハッキリとした大きな声の流暢な英語で「One Asia One World」のスローガンをかかげて世界につながる活動へのスタートを力強く訴えられた。若い魅力的なリーダーの誕生に未来を感じるセレモニーだった。

夜は IPAP Night. 大会に参加する度に年は重ねるものの多くのメンバーとの交流はとても意義深く小さな輪が世界の平和へとつながって行く原動力になることを思う。しかしながら、今回はフィリピンと台湾の政治的摩擦のために台湾からの参加者の取消を生み出すことになった。そのような中でも台湾から22人のメンバーが参加されたことは大きな意義あることだったと感じる。ちなみに2016年の国際大会は台湾で開催される。

いつもの得意な街中カッポレはマニラの極端な貧富の差を見て感じ呑気な街中散策をすることはためられた。ガイドの方によると大卒は80%と教育水準は高いとか。しかしこのことは大きな疑問を持つ。我々が支援していたネグロスのこども達の教育を考えてもわかる。

4日間のマニラでの大会に参加して平和、教育、環境、街並、宗教などなどのワイズの役割の意義を考えさせられた。

(多胡 葉子)

桑田 勝弥メンを 2013 Asia Youth Convocation—Philippines に派遣

今回、桑田勝弥メンを第17回アジア大会マニラで開催

された、ユース・コンボケションに送り出すことができましたのは、私どもにとりま



して、とても嬉しく、名誉に思います。西日本区より12名(男性3名、女性9名)、東日本区より6名(男性3名、女性3名)の参加、海外からは諸般の事情があり、フィリピンから9名の参加のみでした。

3名の講師より、「緑を増やそう」「人が生まれてくる意義」「何事も習慣づける」と題してお話になされ、それぞれ国情も異なる中で、お互いに意見交換がされたとのこと。また「夢」を掲げることにより、様々な困難に立ち向かい、大いにチャレンジ精神を持つことの大切さをも、再確認したようです。4日の岡野アジア会長主催の舞踏会では、力がみなぎった彼等自作のダンスが披露されました。

大会最終日5日の夕食はユースの方たちと、本場の中華料理を舌鼓しながら、それぞれの経験談に耳を傾けました。外国の参加はフィリッ

ピンのみでしたが、日本人同士がお互いよく知り合うことができ、大いに意見交換できたのも大きな収穫であったとのこと。若い時代にこのような貴重な経験ができたことを、全員感謝しておられました。

これらの意義ある体験から得たものを、今後それぞれの職場や、ワイズ活動に大いに役立てて、生かせることを期待し願っています。

(福田 宏子)

ユースコンボケーションに参加して

私は、7月31日から8月5日までの6日間、フィリピンのマニラで開催されましたアジアユースコンボケーションに参加させていただきました。

今回、参加するにあたり私は二つの目標を掲げていました。ひとつは、『自分の世界観を少しでも広げる』ということでした。マニラでは、日本のどこにでもあるコンビニやスーパーがあまり見当たらず、やっと見つけてスーパーの店内に入ると、入り口で銃を持った警備員に持ち物検査をされるなど、生活環境の違いにびっくりしました。

もう一つの目標としていた『チャレンジ』では、現地の人々との出会いの中でコミュニケーションの大切さを改めて痛感しました。その中で、うまくコミュニケーションがとれないことによるジレンマから、最初は消極的であったけれど、一緒に参加したかけがえのない仲間を支えられ、少しずつ積極的にいろいろなことにも取り組む事ができました。

最後に、このような出会いと気づき、学びの機会を与えてくださった全ての方々に心からの感謝の気持ちを述べたいと思います。ありがとうございました。

(桑田 勝弥)

色々な活動報告

大阪土佐堀クラブ納涼例会に参加して

8月20日(火) 18時30分定刻、和やかな雰囲気の中に岩田会長の開会点鐘で始まりました。まずは私達宝塚クラブの紹介とお楽しみの、バイキング、上質のにぎり、ビールはすすむ、美味しく頂いた時に石田会長の合図で着替え、心はフラガール。まずは石田会長の美しいフラから、そして宝塚ワイズの美しいスマイレ達のお笑いフラの出演、そして関学三田学舎の若いフラ・

ガール、会場のカメラマンの一斉にフラッシュが増えました。

締めくくりは会場を巻き込んで楽しいフラの夜、大阪土佐堀クラブ納涼例会は終わりました。

(水谷 恭子)



NGO 25周年記念行事報告

10月18日(土) 10時より宝塚市立国際文化センターで記念事業の一環として「多文化共生フェスタ2013」を開催しました。野中モニカ先生の講演会、ベトナム写真・子どもの絵画の展示、民族衣装撮影、映画、エスニック屋台、落語など盛り沢山の内容になっていました。お昼頃からエスニック屋台が大変賑わっていました。午後からは落語が始まるので、そのお部屋に入りましたが満席でした。3人の落語を聞きましたがどれも楽しくみなさんよく笑っていました。日本のお手前のお茶をいただい

たり、ベトナムコーヒーを楽しんだりしました。3時から4時半までが、What's our mission [多文化共生時代に生きる]と題したブラジルの野中 モニカ先生の講演でした。ブラジルと日本の関係、経済状態、出稼ぎ問題から始まり、人と人、言葉と言葉、習慣と文化の違い、などについて詳しく相手の人をよく理解しゆっくりと説明し短気を起こさずに丁寧に優しく思いやる心を持つととってもいい関係になるだろう、諦めないように!と言われました。大変いいお話でした。元気を一杯頂きました。堀江メンは途中で退場されました。(三品ミチ子)

ストラディヴァリウス・
チャリティーコンサート
コンサート

8月8日(木)、三田・郷の音ホールで開催された同コンサートを聴いた。この催しは「ひょうご子どもと家庭福祉財団」等の主催で、はんしん自立の家の石田所長からの要請により宝塚ワイズもチケットの販売に協力した。

約1,000人収容のホールは開催15分前にほぼ満席となり、このコンサートに対する関心の高さを示していた。私もヴァイオリンの名器ストラディヴァリウスのソロ演奏をナマで聴くのは初めてであり、大いに期待していた。演奏はロシア生まれの30才、若き女性ヴァイオリニストであるアリーナ・ボコストキーナ。プログラムはブラームスを中心としてチャイコスキー、サン・サーンスなど良く知られた曲で構成された。ヴァイオリンの音色は期待通り。のびやかで美しく、極上の響きがたっぷりとホールを満たした。

テクニックも抜群、「軽快にまた、重厚に、」「繊細に、また豪快に、」と体全体を使った説得力のある表現で聴衆を引き込んでゆく、そし

て最後のブラームス「ハンガリー舞曲」における超絶技巧には只々驚くのみでした。名器から紡ぎ出される天上の音楽に加えて、奏者アリーナ・ボコストキーナの超絶美形に聴衆は魅了された。真夏の夜の夢のようなコンサートでした。(吉田 明)

【今月のみ言葉】

辻 建 牧師

「パン種」つまり、パンの酵母についての歴史を調べると面白いことを発見します。人類はいつ頃パンを膨らます酵母、イースト菌を発見したのでしょうか。紀元前4000年のメソポタミアでは酵母なしのパンを食べていたようです。紀元前3000年頃エジプトでほんの偶然から「酵母パン」が誕生し、食べ物としてまた供え物として作られるようになり、エジプトからギリシャに伝えられてたちまちヘレニズム世界へと広がっていきました。旧約の世界ではエジプトに下ったイスラエル民族はやがてモーセに率いられてエジプトを脱出します。この出エジプトの旅を記念する祭りが「除酵祭」つまり「種いれぬパンの祭」です。荒れ野の民は急いだ脱出のために酵母抜きパンを食べた。それを記念するためとありますが、むしろエジプトでのおいしい「酵母入りパン」とたもとを分かつ禁欲の意味があったのではないのでしょうか。酵母入りのパンは香り高くおいしかったはずです。

「パン種」はわずかな量でパンを膨らませ、香り高くそれを仕上げます。ワイズの一員がみな「パン種」として存在しています。あなたやわたしはパンをふくらませ、香りを放つ可能性を秘めているのです。

(辻建)



1. 夏来る

いよいよ夏休み、本格的な夏の特別プログラムの時期が始まりました。近年、7月はまだ大学生は授業もありユースリーダーの本格始動は8月からですが、7月のキャンプはリーダーOBなど有志の手も借りながらスタートしています。先日は、保育園の4歳児5歳児のキャンプを引率して六甲山に1泊しました。あっという間の時間でしたが、その中でも、自然に触れ、仲間と一緒に生活する中で、子どもたちの表情の変化、そして心情の変化に触れることができ、改めてキャンプの大きさを感じました。7月下旬には、福島県の子どもの対象とした復興支援キャンプも行われていますが、キャンプの力が、子どもたちの癒しそして育ちにつながるように切に願っています。このキャンプの実施については多くの方の募金によってまかなわれていますが、目標400万円という中で寄付を募らしていただけ、その目標を達成する中でキャンプが遂行されていることを感謝をもってご報告させていただきます。

2. 三宮会館再開発、(仮称)灘ランチ開設の進捗について

去る5月末に、中央区脇浜2丁目の土地を新しいウエルネスセンター(仮称・灘ランチ)の用地として購入し、また一方で三宮会館の土地の約48%をマンション用地として売却することの合意に達し合意書を締結しました。これによって、まず脇浜に新しいウエルネスセンターを建設し、その後、三宮の残された52%の土地に新会館を建設するという段取りで準備が進められています。現在は、脇浜に関して基本設計が終了し、建設業者の選定の段取りに入っ

ています。建物は機械室階を含めて6階建(実質5階建)で、プール、マシンルーム、スタジオ、児童ダイルーム、高齢者ダイルーム、ロッカー室などの施設が建設されます。完成時期は未定ですが、来年4月以降、できるだけ早い完成を期待しているところです。三宮新会館については、まだ基本設計に入る段階まで行きませんが、年内には公益財団法人としての収益事業となる協働事業者を決定したいとそのプロセスに入ろうとしています。進捗については、また例会やブリテンでお知らせいたします。

ワイズ用語

メネットとは

ワイズメネットの略。ワイズメンの夫人及び各個人クラブが特別メネットとして入会を認められた女性、西日本区定款でクラブの女性会員はメネット会員に成らないがメネット会の活動には自由に参加できる。クラブの事情によりメネット会を設けられない場合は、国際、区、部などからのメネットへの情報伝達に備えるため連絡員を置く。

メネット会(メネット)は西日本区及び国際におけるプロジェクトに参加し、またその目的を遂行のための諸活動を行う事によりクラブの発展に寄与するものとする。